

南区基本計画 (みなみスマートビジョン) & 堺スマートシティ戦略

「スマートシティ」とは？

新しい技術を使ってみんなの生活をもっと便利・快適にする取組です！

ICT(※)などの新しい技術を活用し、市民とまちのさまざまな悩みを解決し、子どもから高齢の方までみんなが笑顔になる暮らしをめざしています。



市民とまちの さまざまな悩み

- 高齢になり健康が不安
- 人口減少でバスの便数が減って不便
- 災害が起きたらどうしよう
- 仕事と子育ての両立が難しい

「スマートシティ」の積極的な推進 次世代の技術や ネットワークを活用



ICTで守る子どもの
安全と健康



次世代モビリティによる
自由な移動



デジタル技術活用による
多様な健康支援



デジタルデバイスによる
防災情報の充実

私たち市民にとっての メリットは？

近年、高齢化や人口減少が進み、健康の不安や交通の不便など市民の課題が出てきています。ICTを開発する企業や大学と一緒にスマートシティに取り組むことで、住みよいまちを少しずつ実現していきます。

ICTなどの新しい技術を活用し、
みんなが便利で豊かな暮らしがずっと続く

ICTは目的を達成するための
ツール

スマートシティが実現したら？ もっと住みやすく、暮らしやすく

スマートシティが進むと、自分に合ったサービスを手軽・便利に活用でき、
人と人とのコミュニケーションが活発になり、もっと健康で楽しく、充実した毎日を送ることができる社会に。



高齢者世帯の場合

- お出掛けが増え心身ともにますます元気に
- 自宅から手軽に市役所の手続きができる
- SNSで学生さんたちと友だちに
- 災害時には自分の居場所を子どもに伝えられる



子育て世帯の場合

- 子育て仲間と気軽に相談
- 離れて暮らす父母の様子をリモートで見守れる
- 自分や子どもの役に立つ情報が届く
- 特典を使って地元の商業施設へお出掛け

みんなの笑顔が
あふれるまちに！

いきいきと
子どもが育つ

移動が
もっと便利に

いつまでも
健康で長生き

安心安全に
過ごせる



※ICT (Information and Communication Technology) とは「情報通信技術」のこと。スマホやタブレット、パソコンなどを活用した、暮らしを良くするサービスの総称です。

住民の皆様とともに考え、取り組んでいくもの

公民共創・公民連携がベース

戦略策定の背景と理念

- 人口減少・高齢化とライフスタイルの変化
- SDGsへの関心の高まり
- Society5.0の実現
- スマートシティの発展
- 新型コロナウイルス感染症の影響による新しい日常への移行
- 公共のあり方の変化
- 都市魅力の向上

理 念

ICTの活用により、
まちと暮らしにイノベーションを生み出し、未来を創る

戦略方針

- 1 イノベーションを実装する環境をつくる
- 2 課題解決型プロジェクトをスピーディーに実行する
- 3 データ連携により新たなサービスを創出する
- 4 重点的に取り組む

- ・ 泉北ニュータウン地域を重点地域とし、**南区基本計画**、及びSENBOKU New Designの実現に取り組む
- ・ “アソビ”（余白の時間、魅力的な都市空間）を生み、暮らしを彩る“ゆしみ”を創造

Live SMART, Play SENBOKU
～暮らし楽しむ、アソビのあるまち～

都市環境



モビリティ



エネルギー

生活・仕事



ヘルスケア



リモートワーク

交流



コミュニティ

愉 し み

【計画名】

堺市南区基本計画

～みなみスマートビジョン～

【将来像】

自然とふれあい、人と人のつながりを大切にする都市^{まち}
～豊かな緑空間と多様な都市機能が融合した「田園新都市」をめざして～

基本方針

1

ひとが絆を結び、安全・安心で
快適に暮らすことができる都市^{まち}



2

ひとがいいきと輝き、
健やかに成長することができる都市^{まち}



3

ひとが未来へと紡ぎ、
魅力と誇りを育むことができる都市^{まち}



【基本方針】

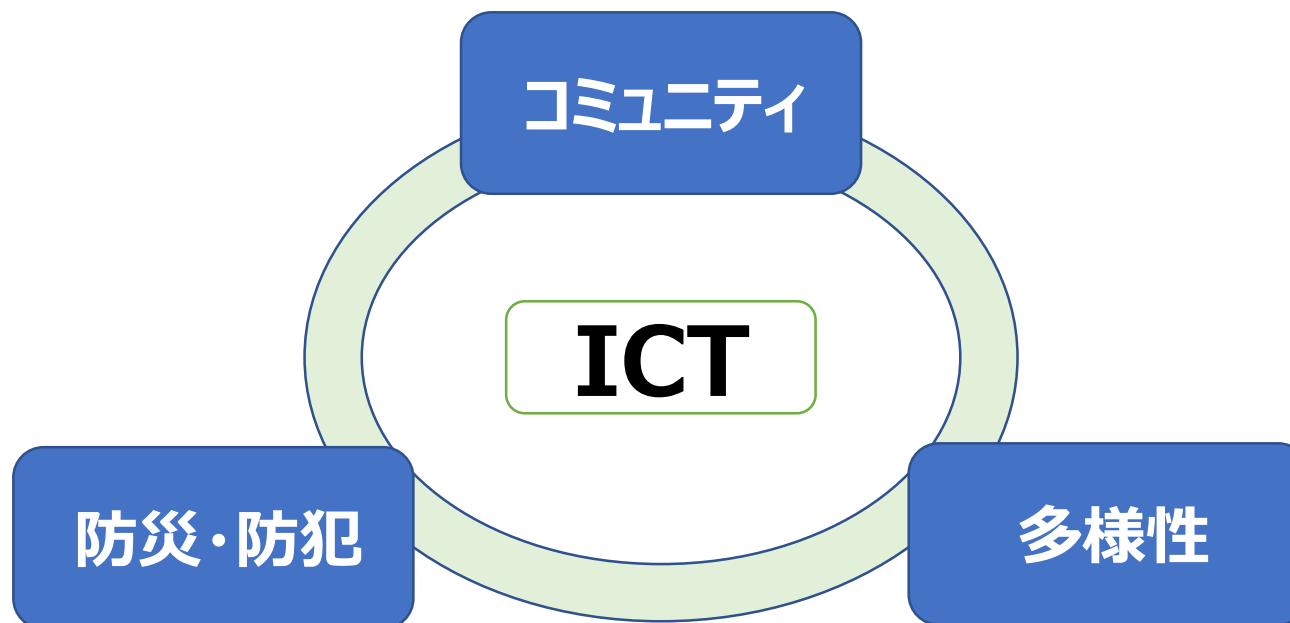
1

ひとが絆を結び、安全・安心で

快適に暮らすことができる都市



【重点施策】

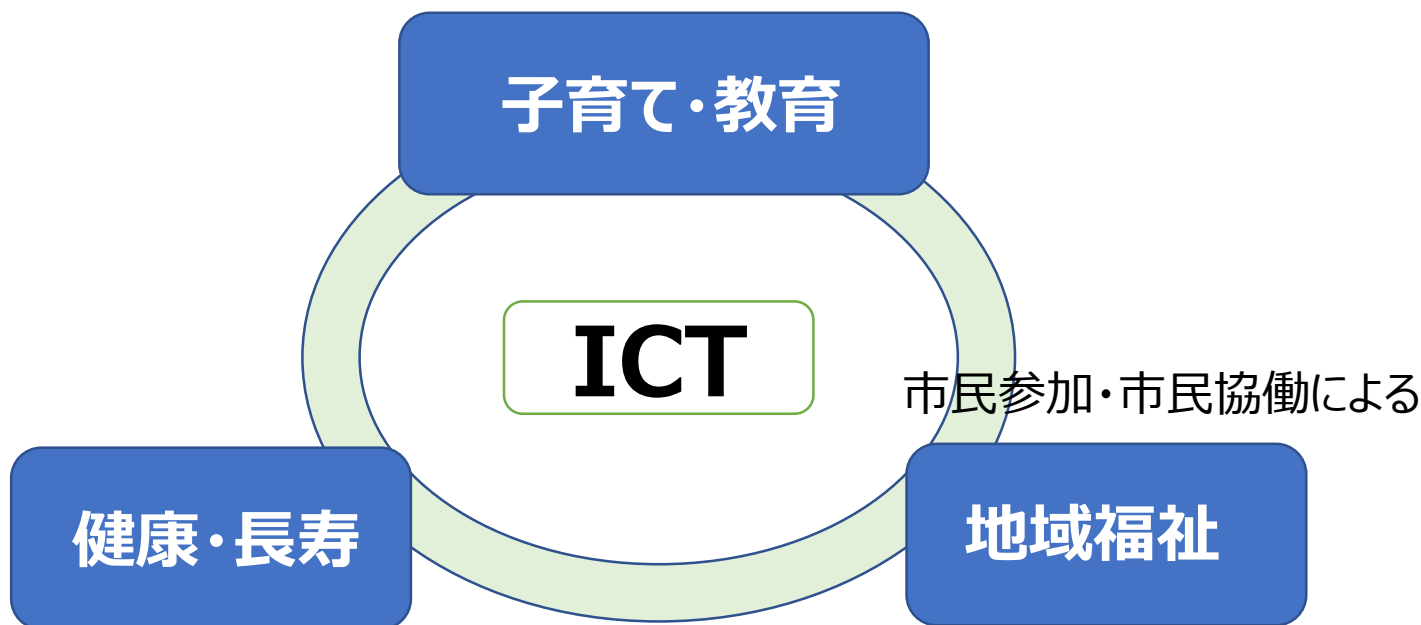


【基本方針】

2 ひとがいきいきと輝き、
健やかに成長することができる都市^{まち}



【重点施策】

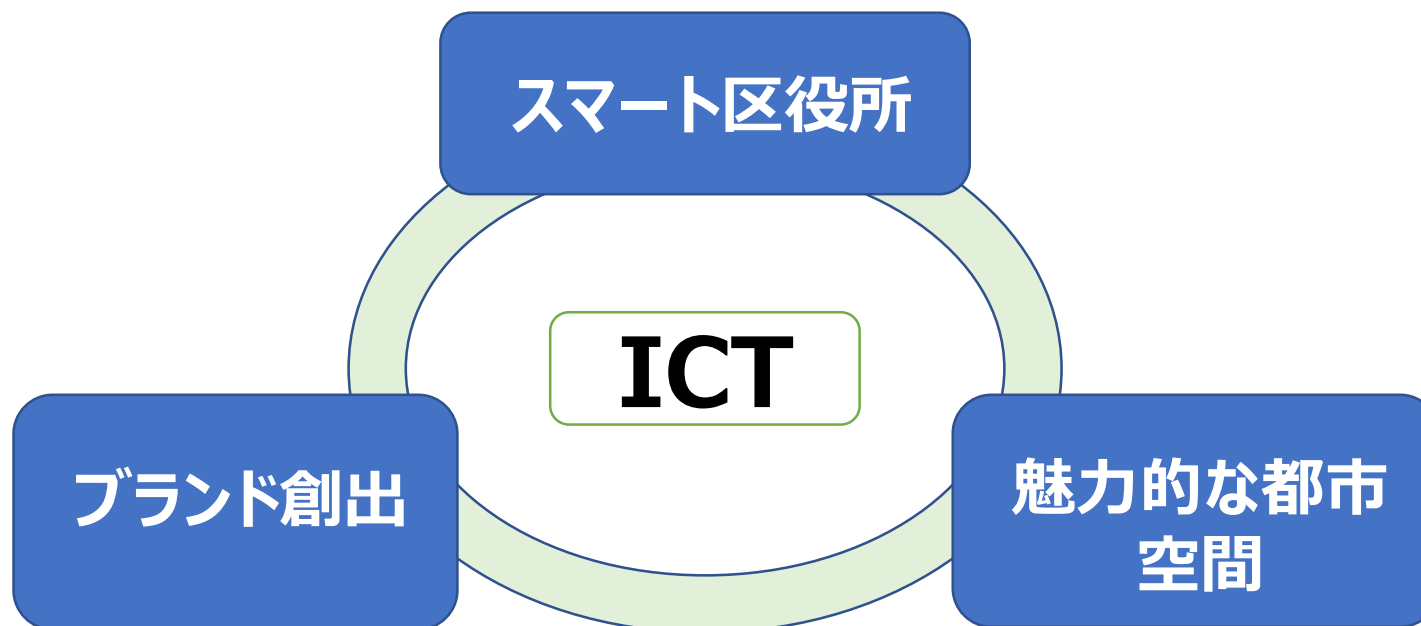


【基本方針】

3 ひとが未来へと紡ぎ、
魅力と誇りを育むことができる都市^{まち}



【重点施策】



<実現イメージ>

概要

- 地域活動がさかんな泉北ニュータウン地域にて、ICTによる交流、市民共創を促進
- 相互に見守りができる仕組みを提供し、災害など有事の際は自分の居場所を伝える

イメージ



- ① 地域での活動がさかんな泉北ニュータウン地域では、スマートシティに関連する取組を実施中
(ヘルスケア・モビリティ・エネルギー・など)
- ② リアルだけでなく、ICT（都市OS）を通じた、バーチャルな交流により共創を下支え
- ③ 災害発生等、有事があった際は、事前にオプトインした利用者の位置情報を開示し、支援が必要な対象を見える化
- ④ リアルとバーチャルによる多世代交流により、地域の相互支援の仕組みを構築

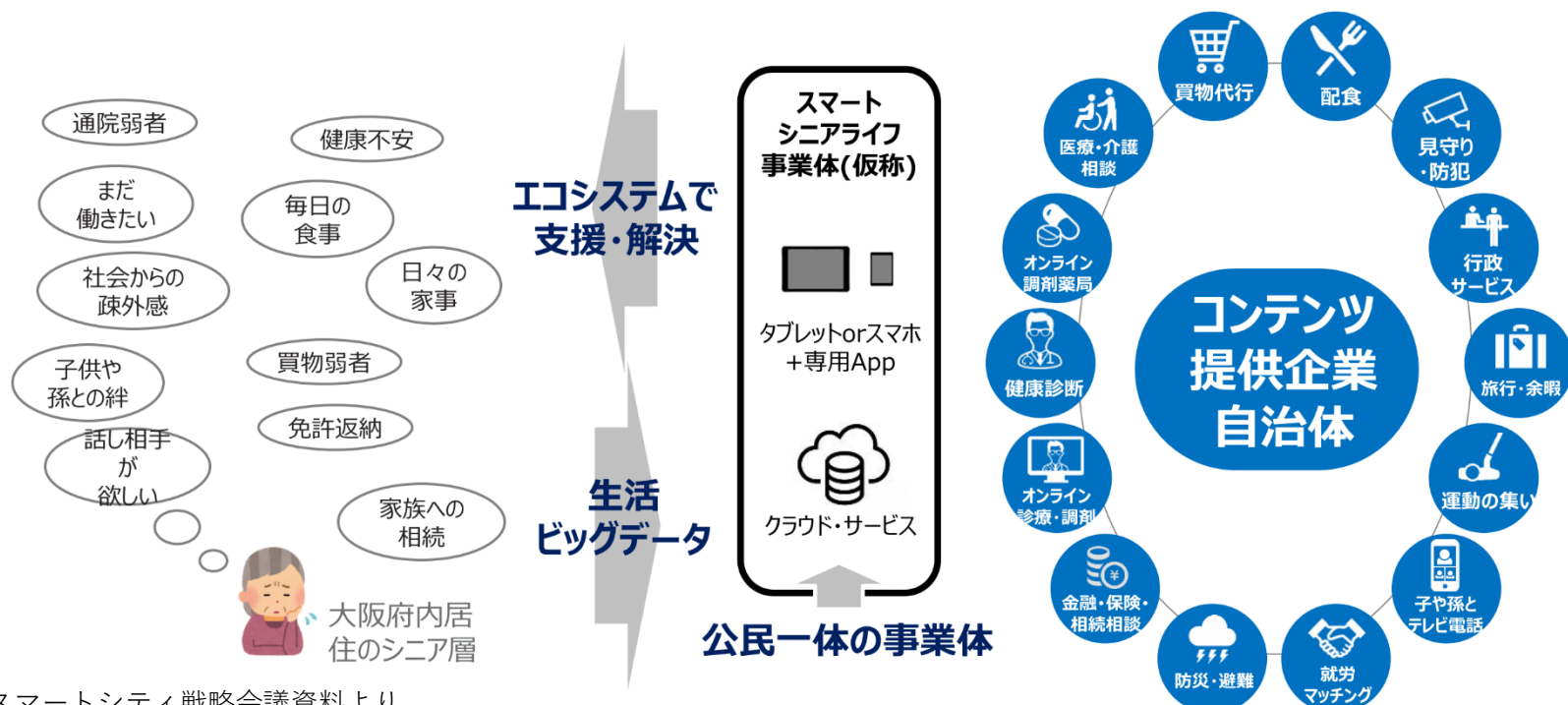
スマートシニアライフ事業の概要

事業の必要性

- 大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」
- 2025年問題 団塊世代すべてが後期高齢者に
- デジタル化の遅れが顕在化 コロナ禍は高齢者に大きな影響

事業内容

- 高齢者に使いやすい設計で、行政 & 民間オンラインサービスをワンストップで提供。
- 異業種連携で高齢者の生活を支援するサービスプラットフォームを公民共同で構築。



スマートシニアライフ事業の概要

- 異業種連携で高齢者の生活を支援するサービスプラットフォームを公民共同で構築。
- 高齢者に使いやすい設計で、行政＆民間オンラインサービスをワンストップで提供。



【目的】

堺市と大阪府で連携し、泉北ニュータウンの活性化に向けて
ICTを活用した地域課題の解決をめざす



**SMART
SENBOKU
PROJECT**

Live SMART, Play SENBOKU



【先行取組テーマ】

モビリティ

ヘルスケア

コミュニティ

リモートワーク

エネルギー

移動販売・キッチンカーによる 買い物支援実証プロジェクト

- ✓ もっと身近な場所で買い物やグルメを楽しみたい
- ✓ スマホで出店状況やお得な情報を確認したい

自宅の近くが便利な買い物の場に！

泉北ニュータウン地域の広場や公園で、移動販売車やキッチンカーを出店。スマホアプリで出店情報を確認でき、電子決済も可能に。新型コロナウイルス感染症により求められる新しい生活様式にも対応します。



「あんしん睡眠サポート」プロジェクト

- ✓ 一人暮らしの親の健康を見守りたい
- ✓ 体の不調や病気の早期発見ができれば



モニター募集中
申し込みはこちらから

睡眠リズムを調べて、毎日の健康チェック

市と大阪大学や企業が連携し、65歳以上の方などをモニターに実施。自宅の寝具にセンサーを敷き、睡眠リズムを測定してレポートをお届けします。また、保健師や看護師による、健康アドバイスもあります。



GIGA(ギガ)スクール構想

- ✓ パソコンを活用し自分のペースで勉強したい
- ✓ 新型コロナウイルスの影響で休校の日も学習を進めたい

1人1台パソコンで新しい学びを構築

昨年12月、市立の小・中学校の児童・生徒に1人1台パソコンが配られました。インターネットで調べ物やAIドリルができます。さらに録音や動画で復習するなど、学び方が多彩になっていきます。



泉北アバタープロジェクト

- ✓ 歳を重ねても社会で活躍したい
- ✓ いろいろな人ともっと交流したい

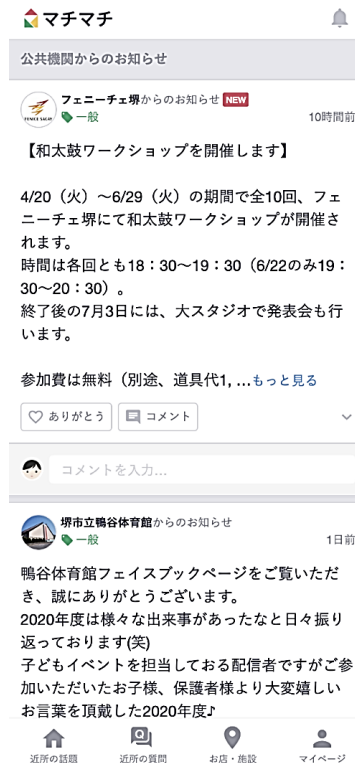


自分の分身「アバター」が地域で活躍

かわいい小型ロボット「ロボホン」を自分の分身として、高齢の方がパソコンで遠隔操作。例えば、イベントで子どもたちに本の読み聞かせをするなど、高齢の方の新たな社会参画の形をめざします。



- 地域限定型SNS「マチマチ」と連携し、市のスポットや施設情報を発信（公共機関ページを設置）
- 南区の独自の取組や活動を積極的に発信（NPO法人、市民活動団体を募集）



堺市全域のユーザーに発信する情報	南区のユーザーに発信する情報
 堺市広報課 Twitter	 堺市南区役所 Twitter
 ハニワ部 Twitter	 PORTAL SENBOKU Facebook
 堺市立図書館 Twitter	 ハーベストの丘 Twitter
 さかい子育て応援団 Facebook	 堺自然ふれあいの森 Facebook
 フェニーチェ堺 Facebook	 堺市立鴨谷体育館 Facebook
 文化振興財団 Facebook	 原山公園屋内施設 Facebook

- 「好き・得意なこと」を無償で贈りあうデジタルプラットフォーム
- ICTを用いて新たなコミュニティの醸成・地域力の向上へ



givと連携した実証プロジェクトは**全国自治体初**

【実証期間】 令和3年6月1日～令和3年10月31日

■ SMART SENBOKU PROJECT



ICT活用
×
ケアラー支援プログラム

&

デジタルディバイド解消
プログラム

【連携先】 SOMPOホールディングス
みずほリサーチ&テクノロジーズ

西日本の自治体初となる連携実施

【支援内容】

ケアラーズ（在宅介護者）サロン

【実証内容】

- ・アプリを活用し介護負担を軽減する方法を学ぶ
- ・不安や悩みを共有できる仲間づくりをサポート

【実証期間】 令和3年6月8日～7月27日



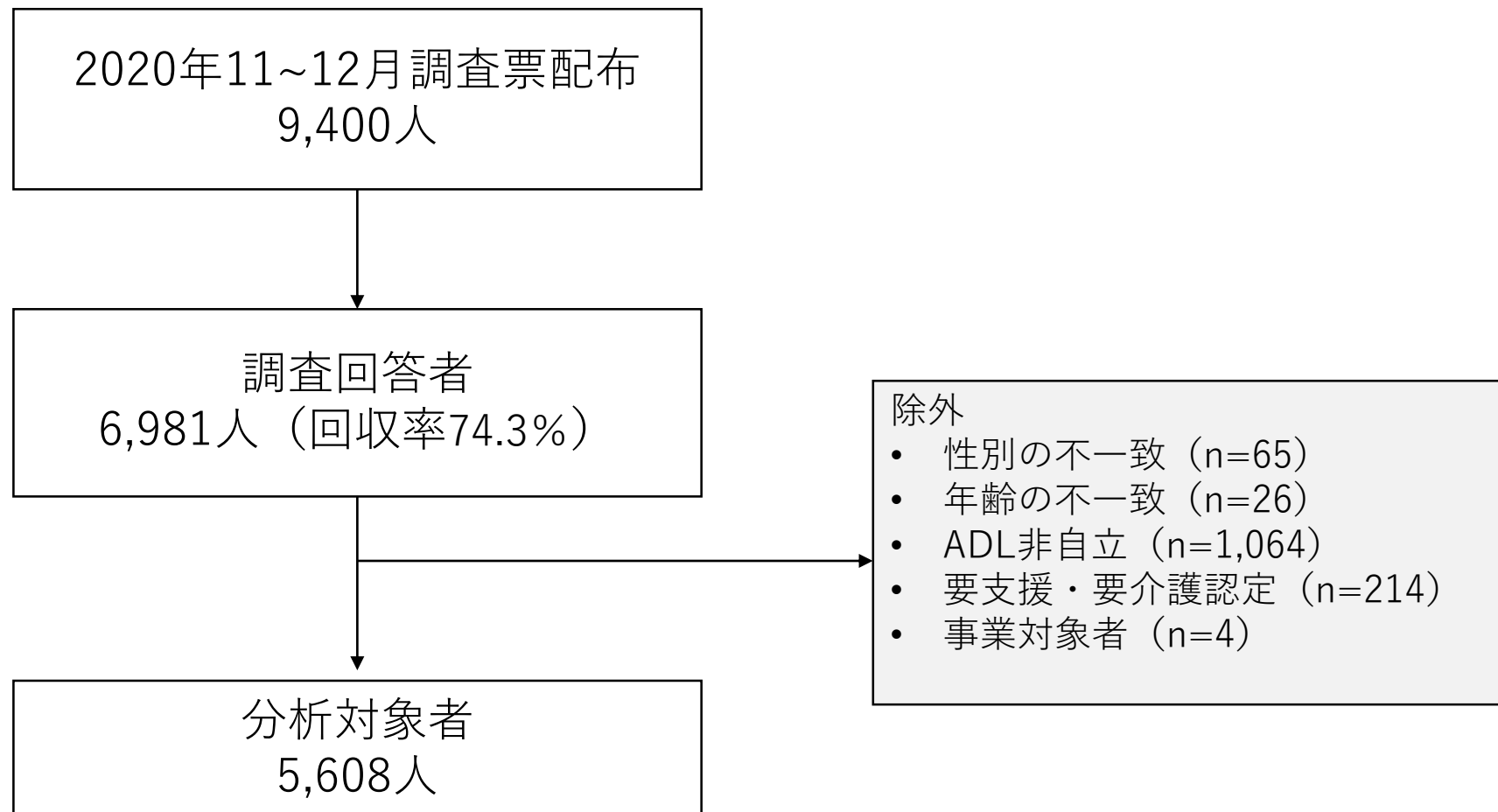
ICTを活用したヘルスケア分野の取組
ケアラーの負担軽減プログラムの効果を検証

堺市コロナ調査結果 (抜粋)

日本老年学的評価研究機構
研究員 方 恩知 (バン ウンジ)

【分析対象】 堺市に在住する要介護認定を受けていない65歳以上高齢者

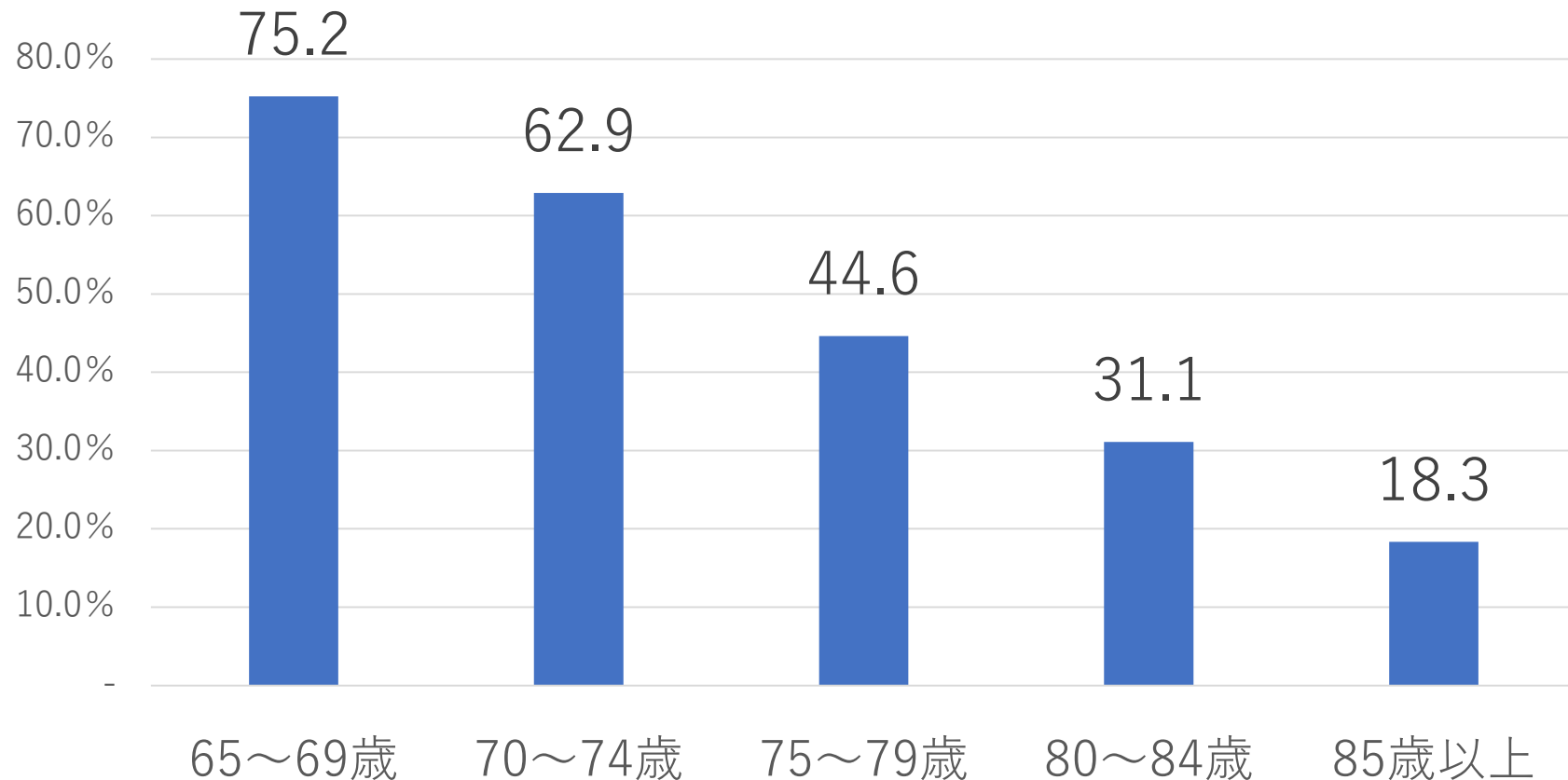
【調査期間】 2020年11月



年代別スマホ所有率

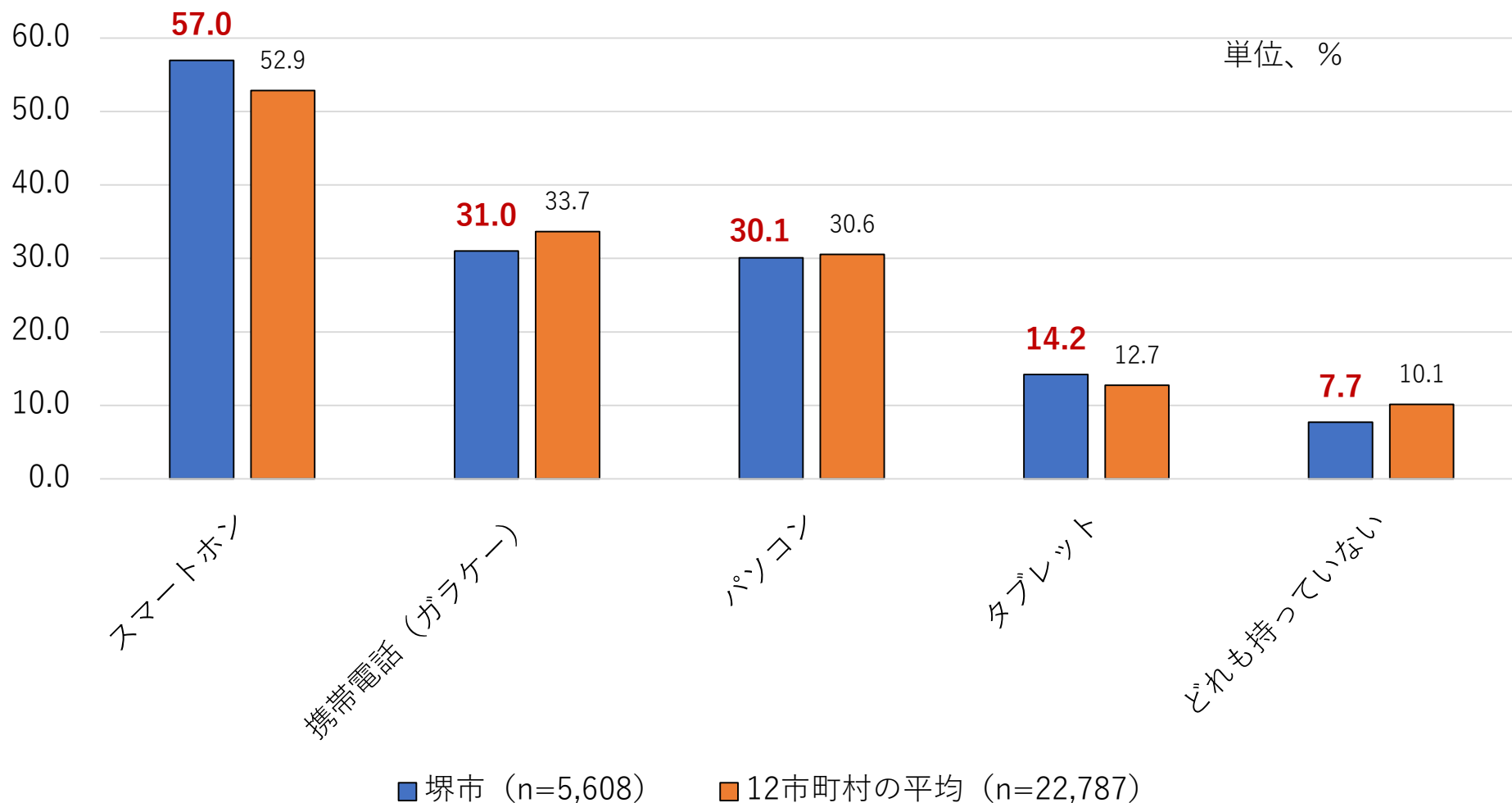
堺市全体の65歳以上高齢者のスマホ所有率は51.3%
南区では57.1%と高い

年代別スマホ所有率（堺市全体）



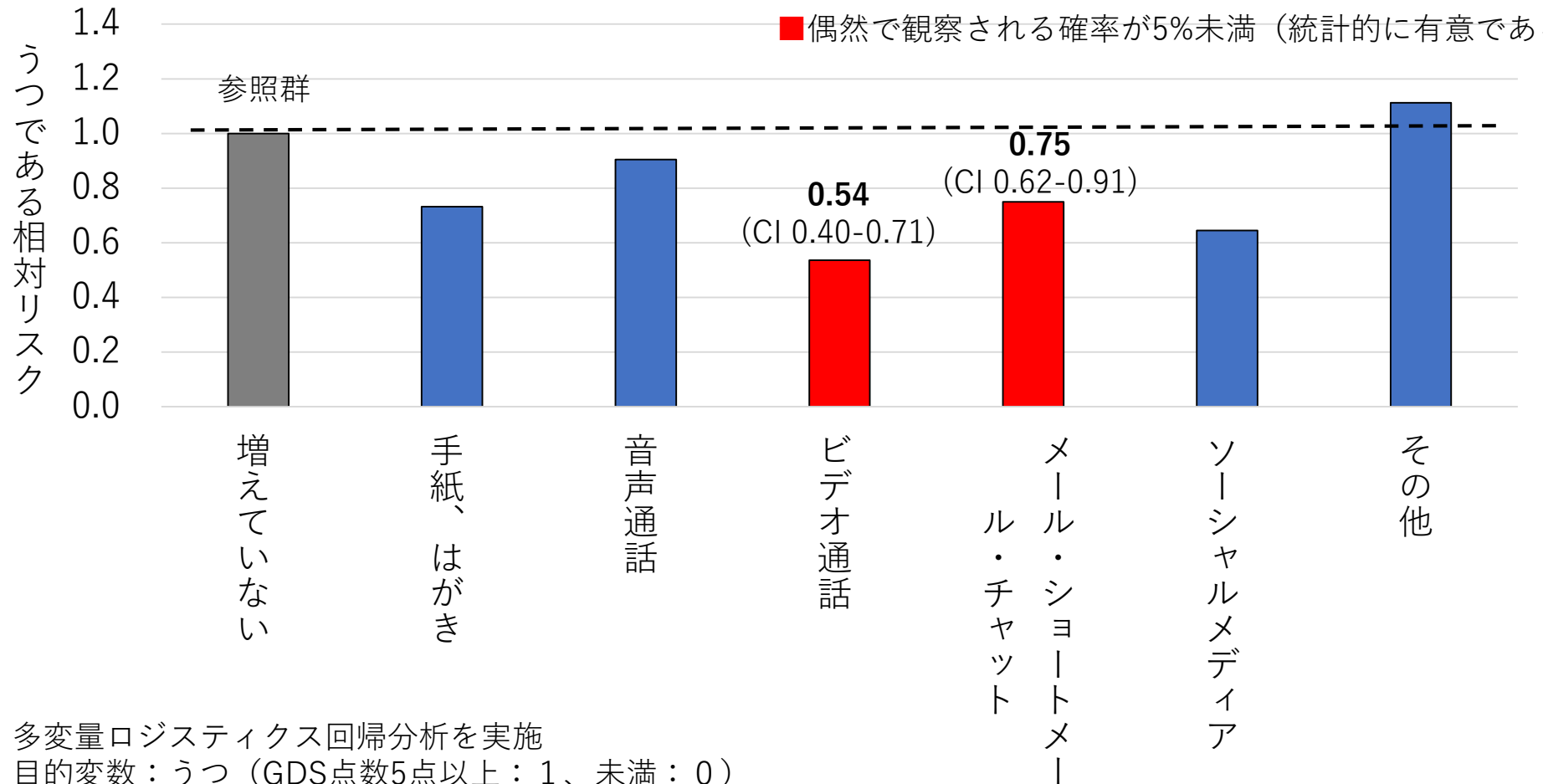
非対面コミュニケーションツールの保有者は92.3%

自分用に持っているもの（複数回答） 65歳以上



ビデオ通話、メール・ショートメール・チャットの利用が増えた人は、それらの利用が増えていない人に比べてうつである相対リスクが25-46%低い

利用頻度の変化とうつの関係



多変量ロジスティクス回帰分析を実施

目的変数：うつ（GDS点数5点以上：1、未満：0）

調整変数：年齢、性別、婚姻状況、就労状況、喫煙、飲酒、教育歴、治療中の疾患有無、IADL

音声通話は電話・携帯電話・スマホ・LINEでの通話など、ビデオ通話は顔が見えるもの